

令和8年第3回五ヶ瀬町議会定例会 一般質問

期日：令和8年9月3日（木）午前10時～

場所：議場

通告 番号	議員名	・質問事項（執行部答弁書 要/不要）
1	矢野 宏	・鳥獣被害対策体制の強化と、適正な個体処理体制の構築について（要） ・スキー場閉鎖後の観光政策について（要）
2	甲斐 義則	・2期目の町政運営について（要） ・道の駅建設について（要）
3	小笠原 将太郎	・小学校の統廃合への今後の取り組みについて（要） ・今後の学校の在り方についての基本姿勢について（要）
4	小笠 まゆみ	・防災関連について（要） ・教育委員会所管の集落施設の空調設備について（要）

一 般 質 問

順	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
1	矢野 宏 (議席番号：4)	1. 鳥獣被害対策体制の強化と適正な 個体処理体制の構築について	近年、イノシシやシカなどによる農作物被害は益々深刻化しており、単なる収獲被害にとどまらず、営農意欲の低下や耕作放棄地の増加にもつながっている。 特に本町のような中山間地域では、高齢化も進んでおり、防護柵の管理や見回り、追払いなど、農地を守ることで自体が大きな負担となっている。 そのような中、本町では現在鳥獣害対策の専門指導員が 1 名配置されているが、各地区の巡回や現場確認、対策指導等、これを一人で網羅することは物理的に不可能であり、結果として対応の遅れが生じ住民の期待に応えきれていないのが現状である。これは単なる指導員個人の努力不足ではなく、明らかに体制の不備に起因するものとする。 また、捕獲後の処分も埋設処理がほとんどだが、この処理方法についてもかなりの労力を要することから、持続可能な鳥獣害対策の観点から考えると、適正な個体処理方法や体制の構築も必要だと考える。 そこで以下の項目について質問する。 1. 近年のシカ・イノシシの捕獲頭数推移とそれをどのように分析しているのか伺う。 2. 鳥獣害対策指導員が 1 名体制から増員できない理由について伺う。 3. 地域おこし協力隊制度を活用した専門人材の確保など新たな体制強化について検討する考えはないか伺う。 4. 現在の捕獲後の処理体制をどのように認識しているのかまた、捕獲者の負担軽減をどのように考えているのか伺う。 5. 埋設に頼らない、高速処理施設や減容化機器の導入について周辺自治体との広域連携も含め検討の余地はないか伺う。 6. 今後の鳥獣害対策体制をどのように強化していく考えか、改めて町長に伺う。	町 長

	矢野 宏 (議席番号：4)	2. スキー場閉鎖後の観光政策について	五ヶ瀬ハイランドスキー場が本年度をもって営業を終了した。これまで本町の観光は、スキー場を中心に展開されてきたが、その役割が一区切りついたことにより、五ヶ瀬町の観光は一定の転換期を迎えているものと認識している。 一方で、令和 11 年度には竹田五ヶ瀬線の開通及び道の駅の整備が予定されており、阿蘇・高千穂を結ぶ新たな人の流れが生まれる可能性が見込まれている。また、九州中央道も着々と工事が進んでいる。 このような状況を踏まえると、今後は観光施策をどのように展開するかという点に加え、交流人口の拡大をどのように図っていくかという視点が重要になって来ると考える。 そこで、従来の観光施策も踏まえながら、交流人口の拡大に向けた今後の考え方や方向性について伺う。 1. スキー場が閉鎖された後、向坂山森林公園エリアを今後どのような方向で活用していくのか伺う。 2. 竹田五ヶ瀬線の開通に伴い、町の観光政策の中でのワイナリーの役割をどう位置付けているのか伺う。 3. 交流人口を増やすため今後どのような分野に力を入れていく考えか伺う。 4. 10年後の五ヶ瀬町の観光ビジョンを伺う。	町 長

一 般 質 問

順	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
2	甲斐 義則 (議席番号：5)	1. 2 期目の町 政運営につ いて	第2 回定例会で町政運営2 期目においての所信表明の 中で、 第1 に、命と暮らしを守るまちづくり。 第2 に、産業を守り、育てるまちづくり。 第3 に、子供と教育を大切にするまちづくり。 第4 に、交流と挑戦がうまれるまちづくり。 第5 に、持続可能な財政運営の5 つに重点を置き町政を進 めて行くとの表明であった。 この中の第2 について伺う。 第2 では、産業を守り、育てるまちづくり。農業、畜産、 しいたけ、観光、商工業など、地域経済を支える産業を本 気で支え、稼げる地域づくりを進めて行くと表明された。 農業、畜産、しいたけ、観光、商工業それぞれについての 政策を伺う。	町 長
		2. 道の駅建設 について	道の駅建設においては、昨年度より計画段階に入り、本 年度、当初予算で実施設計委託料が予算付けされた所であ る。また、道の駅建設検討委員会が立ち上げられ、検討委 員も選任されたところでもある。 建設予定地は、国道 218 号沿いで、将来九州中央自動 車道の開通を待つところであるが、間近に開通する桑野内 方面の県道 8 号線、東には諸塚村・美郷町からの飯干トン ネルが事業化された国道 503 号、西には椎葉村からの国 道 265 号が通っており立地条件は、最高の場所だと考え る。 近隣の道の駅については、日之影町の道の駅青雲橋にお いては、木造2 階建て延べ床面積 985 ㎡、2 階は多目的 研修室、レストラン面積 144 ㎡客席数約 80 席、駐車場 普通車 52 台、中型車 2 台、大型車 5 台、昨年度1 年間の レジカウント数 12 万人、レストラン売上 4,800 万 円、物産館売上 1 億 7,600 万円、合計 2 億 2,400 万円 だったとのことである。	町 長

	甲斐 義則 (議席番号：5)		隣町、山都町の道の駅通潤橋においては、建物面積 958.31 m²、レストラン客席数現在 45 席、60 席に増席準備中、駐車場普通車 50 台、大型車 7 台、昨年度 1 年間の客数 18 万 6 千 5 百人、全体売上 2 億 2,480 万円だったとのことである。 延岡市北方町、道の駅北方よっちみろ屋においては、建物面積約 500 m²、駐車場普通車 40 台、大型車 7 台、レジカウント数 21 万 7 千人、売上 2 億 8,960 万円であったとのことである。 以上のように、道の駅は、経済効果・観光などにおいて、町にとってとても大きな影響があると考ええる。 そこで、次の 4 点について伺う。 1. 建設にはかなりの費用を要すると思われるが、建設に当たっての財源をどうするのか。 また、町産木材を使った上での森林環境譲与税の充当はできないのか伺う。 2. 現在の特産センターごかせを改装するのか、新規に建設するのか伺う。 3. 7 月 28 日には、熊本で再び大きな地震があった。西臼杵広域消防においては、緊急消防援助隊が出動しところである。九州の中央に位置する所であり、道の駅をいかした災害時の防災機能についての考えはないか伺う。 4. 町長が思い描く道の駅について伺う。	

一 般 質 問

順	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
3	小笠原 将太郎 (議席番号：6)	1. 小学校の統廃合への今後の取り組みについて	五ヶ瀬町の小学生数は、平成10年度334人から令和7年度には116人まで減少しており、令和4年度の答弁書要旨では令和9年度までに児童生徒数がさらに約50人減少する見込みが示されている。 こうした状況を受け、教育委員会は令和7年度に住民意識調査を実施し、令和8年2月から3月にかけて町内4地区（三ヶ所・桑野内・坂本・鞍岡）で座談会を開催した。アンケートでは、現状のクラス数を「少ない」とする回答が町民・保護者ともに8割を超え、「全ての小学校について、できるだけ早く検討していくべきである」との回答も町民の約5割、保護者の6割を超えている。 1. 令和3年度の「現段階では統廃合を考えていない」との答弁から、今回、住民意識調査及び座談会の実施に踏み切った経過、判断の背景について伺う。 2. 町内4地区で開催した座談会について、地区ごとの参加人数と、出された主な意見の状況を問う。地区による意見の傾向の違いはあったか伺う。 3. 住民意識調査の結果、特に適正規模の検討を求める回答が町民・保護者の過半数を占めたことについて、町としてどのように受け止めているか伺う。 4. アンケートでは通学時間「20分以内」を望む声が最も多く、通学方法は徒歩・スクールバスへの期待が高い。将来、学校の再編を検討する場合、この結果をどのように通学支援策に反映させる考えか伺う。 5. 住民意識調査及び座談会の結果を踏まえ、今後どのようなスケジュール・体制で検討を進めるか。検討組織の設置や結論を出す時期の目途を伺う。	教育長

	小笠原 将太郎 (議席番号：6)	2. 今後の学校のあり方についての基本姿勢	小学校の統廃合を含む今後の学校のあり方については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律において、学校の設置・廃止に関することは教育委員会が管理・執行する事務とされている一方、総合教育会議を通じて町長と教育委員会が連携し議論を重ねる仕組みとなっている。 住民意識調査及び座談会の結果を踏まえ、今後の学校のあり方について、町長の基本的な考えを伺う。	町 長

順	質問者	質問事項	質問の要旨	質問相手
4	小笠 まゆみ (議席番号：1)	1. 防災関連について	7月28日に熊本地震が発災し、関連死含め39人の方々がお亡くなりになり、今も大勢の方々が猛暑の中避難所生活をしいられている。 また、3万戸以上の世帯がひと月以上断水し、倒壊家屋数は全壊 1,252 棟、大規模半壊 20 棟、半壊 1,032 棟、未確定判定中が8月半ばで 15,500 棟と報告されている。2016 年は全壊 8,657 棟、半壊 34,489 棟、一部破損を含めると 198,238 棟の住宅被害が記録されている。1～2時間ほど移動した場所で、このような大規模災害が発生している事実は心を痛める。 被災者への支援活動をみると、10年前の地震から得た経験で、今回は、スピード間のある対応が行われていると聞く。そこで、我が五ヶ瀬町は、現在、災害発生時にどのような支援策、準備があるのか下記の点を含めて伺う。 1. 飲料、食料の備蓄は何人分か、更新はいつ行ったか伺う。 2. 備蓄倉庫の運用は、4小学校区に分散しているか伺う。 3. 避難所内のプライベート確保テント、簡易ベッド、寝具の数と保管状況を伺う。 4. 避難所、及び避難所となる可能性のある施設の空調完備状況、停電時の対応を伺う。 5. 職員の発災時の初動マニュアルの周知徹底状況を伺う。(町外在住職員に対するマニュアルの存在) 6. トイレは断水時を想定しているか伺う。	町 長

	小笠 まゆみ (議席番号：１)	２． 教育委員会 所管の集落 施設の空調 整備につい て	１．の質問に関連するが、最近の暑さは、災害級とも言える。この状況から、総務課所管の公民館は空調設備が整っているが教育委員会所管の集落施設の状況は把握できているか。「五ヶ瀬町集会施設整備事業補助金」を活用できるが、周知はされているか。また、空調に関して活用事例があるか伺う。	教育長